

令和6年度 全国硬筆コンクール課題参考手本

大平 恵理書

卯の花の匂う垣根に
時鳥 早も来鳴きて
忍音もらす 夏は来ぬ
さみだれのそそぐ山田に
早乙女が 裳裾ぬらして
玉苗植うる 夏は来ぬ

*
書

高校・大学・一般

*署名は枠の大きさに合わせて、姓名または名前を
作品に調和するように書きます。

課題解説

昔の小学唱歌「夏は来ぬ」の一節です。

卯の花の 匂う垣根に
ほととぎす
時鳥 早も来鳴きて
しのびね
忍音もらす 夏は来ぬ

卯の花は、初夏に白い花を咲かせる「ウツギ」の花のこと。旧暦の4月は卯月。ホトトギスはカッコウ科に分類される鳥。ウグイスなどへの托卵たくらんで知られます。「早も来鳴きて」は、「早く来て鳴いている」の意味で、「忍音」は、人知れず声を潜めて泣くことのほか、ホトトギスの初音のこともいい、この歌では、この年に初めて聞くホトトギスの鳴き声を指します。

(課題文は「書文協ことば会議」選定・創作)